幹線旅客純流動データの作成方法

幹線旅客純流動データは、交通機関別の基礎データを元に、１日・年間の輸送実績を用いて、流動量を推計しています。さらに、乗継ぎ処理（重複処理）を行い、交通機関の乗り継ぎを考慮しています。

○ 第６回全国幹線旅客純流動調査では、既存の調査結果として、５つのデータを活用しています。

- 航空利用者　「平成 27 年度航空旅客動態調査」
- 鉄道利用者　「平成 27 年度幹線鉄道旅客流動実態調査」
- 幹線旅客船利用者「平成 27 年度幹線フェリー･旅客船旅客流動実態調査」
- 幹線バス利用者　「平成 27 年度幹線バス旅客流動実態調査」
- 乗用車等利用者　「平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査」

○ 全国幹線旅客純流動では、１日（平日・休日）データと年間データを推計しています。

１日（平日・休日）データは、基本的に、各幹線交通機関別に特定の１日を調査日としたアンケート形式の実態調査結果と、輸送事業者から入手した調査日当日の輸送実績データ等をもとに母集団推計しています。

年間データ（年度単位）は、推計された１日（平日・休日）データと、輸送事業者から入手した１年間（年度単位）の輸送実績データ等をもとに年間を母集団推計しています。

なお、各交通機関で実施しているアンケート調査および交通量の推計方法は以下の通りです。

●航空

機内で客室乗務員が調査票を配布・回収。便別の輸送実績とあわせることで１日・年間の交通実態を母集団推計。

●幹線鉄道

車内で調査員が調査票を配布・回収。列車別駅間通過人員とあわせることで１日・年間の交通実態を母集団推計。

●幹線旅客船・幹線バス

乗船・乗車時に職員あるいは乗務員が調査票を配布し、降下船・降車時に回収。航路・路線別の輸送実績とあわせて１日・年間の交通実態を母集団推計。

●乗用車等

全国道路・街路交通情勢調査の内、以下の２種類の調査結果を利用しています。

＜オーナーインタビューOD 調査＞

車の使用者や所有者に対して，車の１日の動きについてアンケート方式で調査。市区町村別の保有車両数とあわせることで１日の交通実態を母集団推計。また、高速道 IC 間通行台数の１日・年間の比率を用いて、年間の交通実態を母集団推計。

＜高速 OD 調査＞

高速道路利用者にアンケートの実施を周知し、インターネットでの回答方式で調査。高速道 IC 間通行台数とあわせることで１日・年間の交通実態を母集団推計。

なお、乗用車等においては、複数人が乗車している場合も、実態調査の制約から回答者１名分の属性しか把握できないため、便宜上、他の同乗者の属性は回答者の属性を以て処理しています。

○ 複数の幹線交通機関を統合するための乗継ぎ処理をしています。

全国幹線旅客純流動データの作成では、単純に幹線各交通機関データを足し合わせた場合には、異なる幹線交通機関相互を乗り継いだ旅客が重複して計上されるため、異なる幹線交通機関相互の乗り継ぎ処理（重複処理）を行っています。また、乗り継ぎ先が幹線交通機関ではない場合は、端末交通（アクセス交通、イグレス交通）とみなしています。

複数の幹線交通機関を乗り継いだ場合には、乗り継いだ交通機関のうち、１つを代表交通機関として定義し、その代表交通機関を利用した移動として１トリップを計上しています。

図１　異種交通機関の乗継処理イメージ

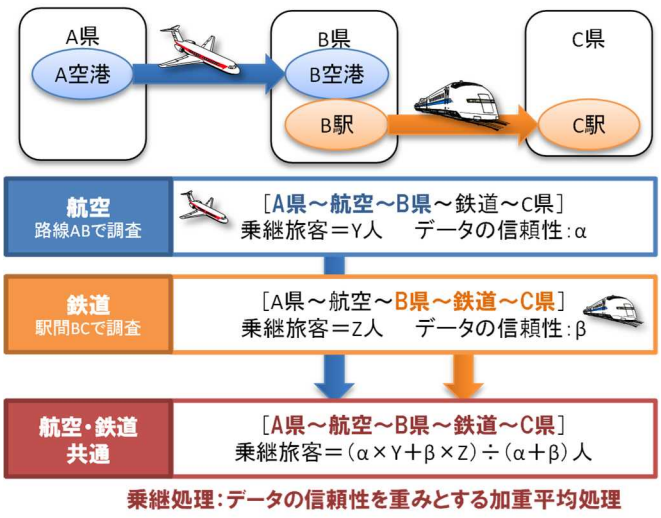
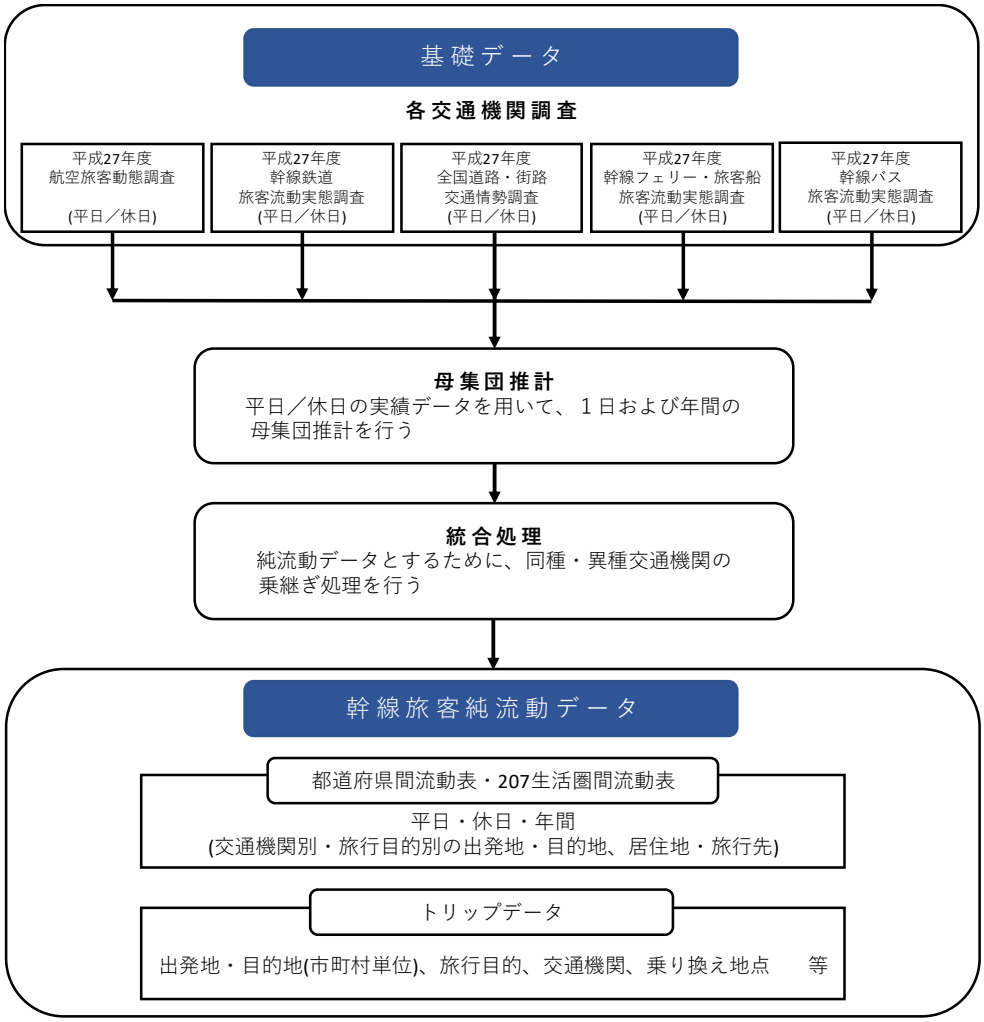
図２　第６回調査における幹線旅客純流動データの作成フロー